



郡山市立谷田川小学校 学校だより

宇津峰

令和 7年度 第15号
令和 7年7月14日
文責 校長 山下嘉寿夫

素敵な本と出会う夏休みに ～学校司書菅野先生のこの夏お薦めの一冊～

夏休みは、新しい知識を吸収したり、感動的な物語に浸ったりする絶好の機会です。読書を通じて、普段は体験できないような冒険に出かけたり、多様な価値観に触れたりすることができます。今回は学校司書の菅野先生が推薦する「この夏の一冊」を紹介していこうと思います。

《低学年向け》

①「ペンギンたんけんたい」

元気いっぱいのペンギンたちが繰り広げる、わくわくするような探検の物語です。探求心や挑戦することの素晴らしさ、そして仲間との絆の大切さを教えてくれる、心温まる冒険物語です。

②「にじいろのさかな」

美しいけれどちょっぴりわがままな主人公のさかなが、分かち合うことの大切さを学んでいく物語です。自己中心的な行動がもたらす孤独と、分かち合いや友情がもたらす心の豊かさを優しく教えてくれます。



《中学年向け》

①「ココロ屋」

感情が実体を持つ世界で、人々の心を修繕したり、時には交換したりする不思議な「ココロ屋」を舞台にした物語です。「心」という抽象的な存在を具現化することで、子どもたちが自分の感情や他者の感情について考え、共感するきっかけを与えてくれる物語です。

②「せかいでいちばんつよい国」

「本当の強さとは何か」という問いを、子どもの目線で深く考えさせる絵本です。優しさ、思いやり、平和といった目には見えない心の豊かさこそが、真の強さであるというメッセージを、子どもたちに優しく語りかけます。



《高学年向け》

①「注文の多い料理店」 (宮沢賢治作品集)

賢治の作品は、独特の美しい言葉遣いと豊かな想像力、そして深い精神性が特徴で、今もなお多くの人に愛されています。作品を通して、私たちに生命の尊さ、自然への畏敬、そして真の幸福とは何かを問いかけ続けています。

②「秘密のスイーツ」

現代の少女と戦時中の少女の交流を描いた、タイムスリップファンタジーです。時代を超えた二人の少女の心の交流を中心に、戦争の悲劇、食の大切さ、そして友情や思いやりの心を育んでいく主人公の成長を温かく描いています。



水泳のプロの指導でぐんぐん前に進もう

～民間エキスパート事業～

1～4年生を対象に「民間エキスパート事業」による水泳指導を実施しました。開成山プールより水泳指導のエキスパートをお招きし、水慣れや息の吐き方、けのびの姿勢やバタ足など、各学年の水泳の基本について学びました。中学年での指導後、子ども達の体はピーンと伸び、前へ前へと進むようになりました。さすがエキスパートです。今後も外部講師等を活用し、子ども達の力を伸ばしたいと思います。



おいしい和食の秘密「だし」 ～「だし」を題材に食育指導を行いました～

本校は、歯科指導や肥満指導、食育など健康教育に力を入れ取り組んでいます。今回も健康教育の一環として、一般社団法人和食文化国民会議より講師をお招きし、「和食」を題材にした食育指導を、5, 6年生対象に実施しました。和食はユネスコの無形文化遺産にも登録されています。和食を知ることによって日本人が古来より受け継いできた「自然尊重」の考え方にも触れることができ、和食を通して日本の習わしなどの文化も知ることが出来ます。今回の授業では、和食についての講義をいただいた



後、こんぶだし、かつおだし、合わせだしを飲み比べ、「うまみ」について学びました。日本人は「うまみ」のおかげで、他の国の食事より健康的に十分な満足感と幸福感が得られるのだそうです。子どもの頃から、この「うまみ」について体験し理解することで、好ましい食生活を身に付けてほしいと思います。

やはり、学習基盤は「国語力」～企業アンケート、東大生 100 人に聞きました～

ある学習塾を運営する企業が現役東大生 100 人（塾講師）に対して学習の基盤に関するアンケート調査をしたところ、100 人中 77 人が「学習の基盤は国語力」と回答し、特に「読書」と「対話」の習慣が国語力を育て、あらゆる教科の理解や思考のベースになっていたということが明らかになったということです。自由記述回答では「何の教科の学習をするにも、問題を解くにも、文章を読む力や要点を理解する力、自分の考えをまとめる力が必要だと思うから。」といったコメントが多く寄せられたそうです。更に「国語力増強に一番役立ったことは」と尋ねたところ、小学生時代には読書（64%）と対話（21%）と答えていて、基礎的な国語力の土台は「読書」と「対話」によって早い時期から築かれていたことが分かります。ここでの自由記述回答について興味深かったのが「幼少期から小学生の間に、家族とたくさん話していたことが国語力の形成に大きく役立った」と答えた学生さんがいたということです。なるほど、やはり家族との会話や、人間と人間の対話は大事なのだと再確認することができた記事でした。

ヤワな大人にならない「生きかたルールブック」 ～ その十三 ～

《生き方ルール 48》

「子どものうちに、よい習慣を身に付ける」

よい習慣は、一生使える、とっておきの宝物。大人になるほど身に付けづらくなるから、子どものうちに、どんどん手に入れておこう。

【ちょっと一息 コーヒーブレイク】 ～子どもとの話題作りに～

7月14日と言えば浦賀にペリーがやってきた日です。この事件は小学校の歴史でも学習するので、わりと知られている出来事かと思います。ペリーが来日したことをきっかけに時代は大きく動き出しました。開国、幕末の動乱…。歴史好きには堪らない時代でもあります。ところで、ペリーが来日した当時、日本は鎖国をしていて英語を話せる人がいたのか大変気になっていましたが、どうやらペリーとの交渉は英語以外で行われたようです。そこで問題です。ペリー来航時、様々な交渉は何語を介して行われたでしょう。

- ① スペイン語 ② オランダ語 ③ 中国語

前回の答えは ③ 公園条例 でした。